

本耶馬溪高齢者徘徊模擬訓練を 12月13日(日)に開催

本耶馬溪(青地区、曾木地区、樋田地区)において、高齢の認知症の方が行方不明になったという想定で、捜索と認知症の方への声かけの訓練を行いました。この訓練は、地域住民、警察、消防、福祉関係者、行政等の実行委員会で準備をし、当日は101名の皆様の参加のもと、「地域のネットワークを活用した情報伝達の流れ」及び「本人の気持ちに配慮した声かけ」を体験して頂くことを目的に訓練を行いました。

この訓練は、中津市社会福祉協議会（地域包括支援センター社協）としては、初めて行なったものです。認知症になってもお互いを理解し、安心して住める『認知症にやさしい町、みんなにやさしい町』を目指して、今後も地域の方々と一緒に取り組んでいきたいと思っています。



小野実行委員長(本耶馬溪地区自治会長)のあいさつで訓練が開始。



歩いている人やお店の人に「このような人見かけませんでしたか？」と尋ねながら探します。



そうかな？と思われる人に声をかけてゆっくりと話しかけます。



無事に本人役の人が見つかりました。